

串本海中公園 マリンパビリオン

2009. 3

Vol. 38, No. 2



ネバリモ

Leathesia difformis

体は肉質で基盤からドーム状に盛り上がり、表面は平滑でヌルヌルした手触りがある。色は明るい茶色で時にやや緑色がかかる。春から初夏にかけて潮間帯付近の岩の上に生育し、同時期によく見られるフクロノリに外見が良く似るが、本種は小型の時は中実（フクロノリは中空）であること、体がやわらかくまた粘りけがあることで容易に区別出来る。直径は普通2～3 cm前後であるが、時に5 cmになる。岩礁海岸の潮間帯付近の岩の上や時にホンダワラ等の大型海藻の上に着生し、塊状となる。分布は北海道から九州までの日本全国、朝鮮半島、中国、アメリカ西岸、オーストラリア、大西洋と極めて広い。写真は有田海岸潮間帯にて撮影したもの。ナガマツモ目。

S.U.

串本海中公園センター

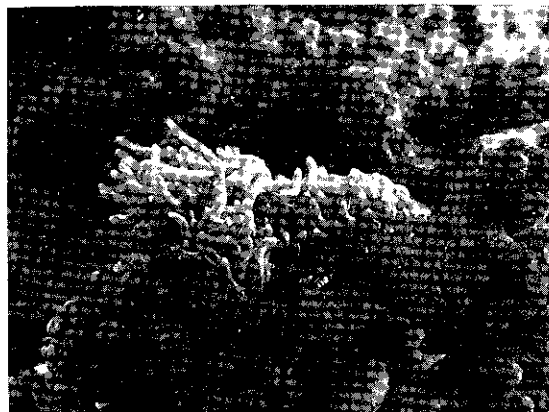
「光を食べる生きもの」水槽で
“センジュミノウミウシ”大量発生

吉田 徹

本誌前号では、「光を食べる生きもの」水槽のオオサンゴイソギンチャクの放精放卵を紹介したが、今度はこの水槽で予期せぬ奇妙な生物を発見したので紹介する。

水槽内のムラサキハナヅタに、いつの間にか小さなイソギンチャクのような、もしくは海藻のような物体が付着していた。ムラサキハナヅタを海から採集してきた時より付着していたようだが、職員皆それぞれイソギンチャクや海藻、ムラサキハナヅタのポリプだと思い、ちらほらと見えるだけなこともあって特に気にする事はなかった。しかし水槽オープンより半年ほど経つと、ムラサキハナヅタはほとんどポリプを出さなくなり、逆にこの奇妙な物体はいつの間にかムラサキハナヅタ上のあらゆるところで観察できるまでに増えていた。

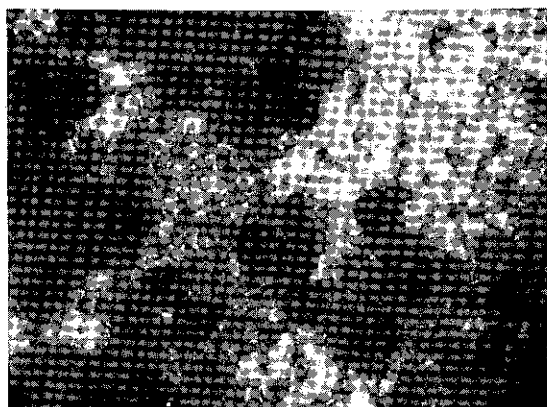
この奇妙な物体は、ミノウミウシ類の一種の“センジュミノウミウシ” *Phyllodesmium briareum* であった。主な生息域は西太平洋熱帯域で、全長約 25 mm で細長く、全体的に淡褐色、背面には 30 本ほどの突起（背面突起）があり突起の先端は黄色くなっている。多数伸びた背面突起は、名前の由来である千手観音を思わせる。そしてこの外見ゆえ、一見しただけではウミウシとは分からない。



センジュミノウミウシ (1 個体)

ミノウミウシの仲間は、刺胞動物のソフトコーラルを餌とするものが多く、このセンジュミノウミウシも今回取り付いていたムラサキハナヅタを食べているようである。水槽内にはウネタケやカタトサカの仲間などの数種類のソフトコーラルを飼育しているが、ムラサキハナヅタ以外を食べている様子は無かった。またこのミノウミウシの仲間には、餌とする刺胞動物の能力を吸収し自らのものとするものもいる。刺胞動物は身を守るために刺胞という毒針を持っているが、この刺胞を体内で選り分けて背面突起に集め自らの武器とするのである。さらに、一部の刺胞動物は体内に褐虫藻という共生藻をもっており、これが光合成により作ったエネルギーを利用して生活している。ミノウミウシ類には、この褐虫藻をも体内に取り込み刺胞動物と同じように利用する種もいる。そこでセンジュミノウミウシを顕微鏡で観察してみると、体内の至る所に直径 12 ~ 14μm ほどの褐虫藻を多量に確認する事が出来たが、背面突起に刺胞は確認できなかった。

今回、40 cm × 20 cm × 20 cm ほどのムラサキハナヅタの塊に約 120 匹のセンジュミノウミウシが付着していた。当初はほとんど見られなかった事から、採集したムラサキハナヅタに付着していた卵もしくは幼体が、水槽内で成長したものと思われる。自然界ではあまり数の多くない種だが、今回のようにある一定の場所で定期的に大量発生する姿が確認されている。



センジュミノウミウシ体内の褐虫藻

海中展望塔に集まる魚 (32)

2008年1月～12月

小寺 昌彦

2008 年は 120 日の観察で 188 種の魚類が記録された。年間出現種数は過去最多だった 2007 年の 172 種を上回り、3 年連続で最多記録を更新した。日出現種数は 9 月 15 日と 11 月 6 日に前年と同じ過去最多の 76 種が記録された。日出現種数の最少値は 6 月 1 日の 33 種で、前年の 31 種を上回り、最多記録となった。なお、最少の 33 種は 1980 年 2 月と 1984 年 3 月の月間出現種数の最少記録と同じ値である。

月間出現種数を見ると、1 月は前年 12 月の 106 種を引き継いで 93 種と多く、その後 3 月の 70 種まで減少したが、4 月から増加に転じ、9 月には月間種数で過去最多となる 119 種が記録された。10 月からは減少して 12 月に 97 種となった。8～11 月の 4 ヶ月間はそれぞれ 100 種以上が記録され、1 月、2 月、5～11 月の 9 ヶ月で月間種数が過去最多記録となった。

さて、2008 年に記録された 188 種のうち、前年との共通種は 142 種で、前年見られなかった魚種は 46 種であった。このうち、コバンザメ、イシフエダイ、ノコギリダイ、フタスジヒメジ、イッテンチョウチョウウオ、アカハラヤッコ、ヘラルドコガネヤッコ、タレクチベラ、ヨゴレヘビギンボ、セダカハナアイゴ、ヒラニザ、ホソカマス、クマドリ、コモンフグの 14 種が展望塔での初記録種であった。ただし、ホソカマスは 1979～1999 年に「カマス科の一種」として記録されている中に、ヨゴレヘビギンボは 1984～2002 年の「ヘビギンボ科の一種」の中に、それぞれ出現していた可能性がある。

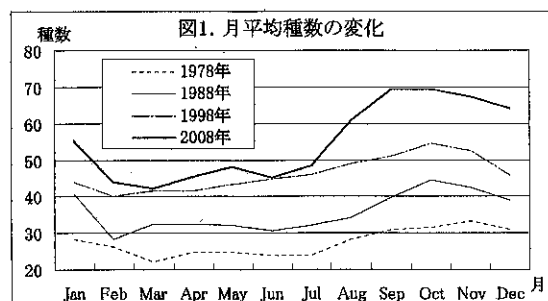
2008 年の出現率が 80 % (96 日) 以上の常連種は 26 種で、前年の 25 種より増加し (前回の報告: 本誌 Vol. 37, p. 13 で 24 種と記述したが、ムギイワシを数え忘れていたので訂正したい)、うち 11 種が 100 % の出現率であった。前年との変化では、ムギイワシとクロホシイシモチ、ナガニザの 3 種が 80 % 未満になり、ホウライ

ヒメジ、フチドリスズメダイ、テンクロスジギンボ、ツノダシの 4 種が 80 % 以上になった。フチドリスズメダイとツノダシは観察以来初めて 80 % 以上になった種である。またフチドリスズメダイは 2006 年に初めて観察された新参種で、3 年目となる本年は 100 % の出現率で常連種の仲間入りをした。前年後半以降は同属の常連種であるセダカスズメダイより数多く見られるようになっていく。前年に比べて増加が目立ったものはクサフグ (6.7 %→56.7 %)、フチドリスズメダイ (55.0 %→100 %)、カゴカキダイ (17.5 %→45.0 %) など、20 % 以上の増加をした魚種は 11 種であった。逆に減少が目立ったものはアミメブダイ (45.8 %→0 %)、ナガサキスズメダイ (45.0 %→0.8 %)、クロホシイシモチ (92.5 %→60.0 %)、ミナミギンボ (79.2 %→47.5 %) など、20 % 以上の減少をした種が 10 種見られた。大きな減少を示した種の多くは同じ 1 個体が長期にわたり塔周辺に居続け出現したもので、ナガサキスズメダイやアミメブダイ、ミナミハコフグなどがこれに相当する。

2008 年の特徴は、多くの魚種が通年観察され続け、年間出現種数だけでなく、月間出現種数や日最少出現種数など様々な最多記録が更新されたことである。本年の出現種数は 188 種であるが、観察を開始した 1978 年から 1987 年まで最初の 10 年間に記録された種数の合計が 189 種であり、本年は最初の 10 年分に匹敵する種数であったと言える。年後半の多種傾向は 3 年連続で見られ、年後半ほどではないものの年前半も比較的多種が出現したが、これは 3 年続いた冬季の高水温により多くの魚種が越冬して出現し続けたことによるものと推察される。

図 1 に 1978 年から 10 年おきの月別平均出現種数を示した。どの年も冬季に減少、春季に停滞、夏季に増加、秋季に多種が見られ続けるのは、同じ傾向となっている。年々出現種数が増加しており、2008 年は春の少出現季にも、1988 年の秋程度の出現種数となっている。また、1998 年は海中展望塔での観測史上、冬の水温が最も

高かった年で、冬季（1月～3月）の平均水温が 18.3℃もあった。この年は多くの魚種が越冬して塔での観察で出現し続け、様々な記録を打ち立てていた（本誌 Vol. 28, pp. 14-15 参照）。本年は 1998 年ほどではないものの、冬季の水温が高く推移し（17.8℃）、月平均出現種数が



1998 年を下回ることにはなかった。また、8月から種数が急激に増加して、9・10月は毎日 70 種近い魚種が観察され続けた。前年に引き続きチヨウチヨウウオ類の出現が多かったことも特徴的で、1 年間に過去最高の 14 種が記録された（これまでの記録は 1997 年の 13 種）。10 月 22 日には 1 回の観察で 12 種の記録が出るなど、10 月には月間 13 種が出現した。

2008 年は 9 月に台風 13 号が接近したものの、前年とは異なり台風の前後で魚類の出現状況に明瞭な差は見られなかった。8 月以降に出現種数が著しく増加したのは、新しい稚魚の加入が多かっただけでなく、台風の少なさが強く影響しているものと思われた。

種 名	JFMAMJJASOND 日数
ヤッコエイ	—1— 2
ウツボ	1-11-111-1 9
ワカウツボ	11-11-1111 13
トラウツボ	—1—1— 2
ゴイシウミヘビ	—1— 1
キビナゴ	4212-122555 46
ゴンズイ	—122- 6
アカエソ	—1-111-1 9
ボラ	321111232223 71
ムギイワシ	424554344555 94
ギンイソイワシ	555541-35555 89
オキザヨリ	—111- 3
ヘラヤガラ	11-111-111 11
アオヤガラ	111-121 11
カサゴ	211221221112 48
キリンミノ	-1- 1
ハナミノカサゴ	1-1-1-1- 6
ヒラスズキ	-1-1-1- 3
スジアラ	—1-1- 2
ヌノサラシ	—111- 5
タナバタウオ	—1-1- 2
オオスジイシモチ	212222221-12 51
クロホシイシモチ	1-25445532- 72
キンセンイシモチ	—111 5
コバンザメ *	—1- 2
カンパチ	—1-1- 1
ブリ	—1- 1
ギンガメアジ	—12-1- 6
マルアジ	—2223 15
ムロアジ?	1-1-1 2
マアジ	—1- 1
イシフエダイ *	—1-111 6
バラフエダイ	22-112222 50
ヒメフエダイ	12- 11
クロホシフエダイ	—11-1- 3
フエダイ	1111121121-1 33
クロサギ	1-11222221 38
コロダイ	—1- 1

種 名	JFMAMJJASOND 日数
イサキ	—1-1- 2
クロダイ	-1- 1
ヘダイ	—11- 3
ノコギリダイ *	—232- 19
ハマフエフキ	—1-111-2 16
アカヒメジ	1-23122222- 47
フタスジヒメジ *	—1- 1
ホウライヒメジ	222221222222 97
コバンヒメジ	—1- 1
オジサン	22211-222233 87
オキナヒメジ	—1- 1
ウミヒゴイ属の一種	—11-1- 3
ツマグロハタンボ	-21- 6
トゲチヨウチヨウウオ	322232223333 112
チヨウチヨウウオ	333344554333 120
ゴマチヨウチヨウウオ	—11- 6
ミゾレチヨウチヨウウオ	—1222 24
ニセフウライチヨウチヨウウオ	1-1-1-211 14
チヨウハン	—1- 1
ミスジチヨウチヨウウオ	1-1-1-2222 41
アケボノチヨウチヨウウオ	-1-1-11- 3
ハナグロチヨウチヨウウオ	—2221 28
スミツキトノサマダイ	1-1-1-222322 58
トノサマダイ	2-1-123333 56
ヤリカタギ	1-1-1222- 35
イッテンチヨウチヨウウオ *	—2221 31
フウライチヨウチヨウウオ	22-11-221 39
アカハラヤッコ *	—1- 4
ヘラルドコガネヤッコ *	—1- 1
ナメラヤッコ	-1-111211- 29
サザナミヤッコ	—111-1- 6
ノトイスマミ	223332232223 89
テンジクイサキ	222222122222 90
ミナミイスマミ	212221221122 59
イスマミ	1-12-1112112 27
クロメジナ	334554433343 119
オキナメジナ	11111211-11 27
メジナ	555555555555 120

種 名	JFMAMJJASOND日数
カゴカキダイ	--112122222 54
イシダイ	-----1121 13
イシガキダイ	-----1-1- 3
ヒメゴンベ	-----1-1-11- 4
ミギマキ	---221111112 41
タカノハダイ	21332222222 112
クマノミ	33333333333 120
アマミスズメダイ	-2211-----111 27
シコクスズメダイ	-----222- 26
テンジクスズメダイ	223231-12333 89
ロクセスズメダイ	1111-----12323 47
シマスズメダイ	-----1----- 1
オヤビツチャ	444433334324 116
イシガキスズメダイ	32111222223 93
ハクセスズメダイ	-----2----- 7
メガネスズメダイ	21-----1- 14
ソラスズメダイ	55555555555 120
ナガサキスズメダイ	-----1----- 1
オキナワスズメダイ	-----121----- 15
セダカスズメダイ	23232322233 120
フチドリスズメダイ	33223323333 120
コブダイ	1-----1 2
ブチススキベラ	22222222222 100
ムシベラ	1-----1-1 9
カンムリベラ	---11122211 32
ツユベラ	-----11----- 2
クギベラ	22222222322 107
トカラベラ	1-----3
イナズマベラ	-----1----- 2
ホンベラ	222221-1222 61
タレクチベラ*	-----1----- 1
ナメラベラ	---1111111- 14
シロタスキベラ	-----1----- 1
クロベラ	-----1----- 1
ホンソメワケベラ	33333222333 120
ノドグロベラ	---1111221- 31
セジロノドグロベラ	-----1----- 1
アカササノハベラ	33333333333 120
ホシササノハベラ	-----1----- 1
アカオビベラ	112-111211- 30
カミナリベラ	444443344343 120
ハラスジベラ	1-----1----- 3
オニベラ	-----1----- 1
コガシラベラ	33333222233 117
ニシキベラ	33333333333 119
セナスジベラ	22112212223 77
ヤンセンニシキベラ	2211221-1- 39
オトメベラ	33344333333 119
ヤマブキベラ	32223223333 120
ハコベラ	---1----- 1
オビテンスモドキ	-----1----- 1
ニセモチノウオ	-----1-111- 9
ハゲブダイ	1-----2122 26
カメレオンブダイ?	-----1111 7
イチモンジブダイ	---1-1----- 4
ヒブダイ	222121222323 83
ダイダイブダイ?	11-----2222 32
アオブダイ	---1-1122-1 25
ニシキブダイ	2222221111- 55
オウムブダイ	-----1-13322 39

種 名	JFMAMJJASOND日数
ナガブダイ	12222112222 84
アオブダイ類 (幼魚)	2211-2212- 38
ブダイ	33333333334 120
ワヌケトラギス	11----- 6
ヘビギンボ	1-----1----- 2
ゴマフヘビギンボ	---111211-1- 14
ヨゴレヘビギンボ*	-----11----- 2
ミノカエルウオの一種	1----- 1
ニセクロスジギンボ	-----1----- 2
カモハラギンボ	1-1-22212211 52
ニジギンボ	---1-1----- 3
ミナミギンボ	211111112121 57
テンクロスジギンボ	22222122222 99
ナンヨウミドリハゼ?	-----1----- 1
クツワハゼ	---1-111- 9
アカハチハゼ	-----1----- 2
クロユリハゼ	---22121-1 12
アイゴ	211-2222222 66
セダカハナアイゴ*	-----1----- 1
アミアイゴ	11----- 3
ツノダシ	22222222233 110
ヒメテングハギ	-----1----- 1
ミヤコテングハギ	-----2222 45
テングハギ	11122221212 57
ニザダイ	32322223233 116
ゴマハギ	-----1222 28
ヒレナガハギ	-----1-1- 3
ニセカンランハギ	111-2222122 61
ニジハギ	1----- 2
ヒラニザ*	-----1----- 1
ナガニザ	2111-1233233 79
モンツキハギ	-----1----- 2
サザナミハギ	11-1122232 53
ホソカマス*	-----2-1- 3
アカカマス	---1-1----- 3
ハナヒラウオ?	---1----- 1
ヒラメ	---1----- 1
クマドリ*	-----1-1- 2
アミメウマツラハギ	-----1----- 3
ノコギリハギ	11-----1- 5
ニシキカワハギ	-----1111 12
カワハギ	1-1-1112211 31
ウミスズメ	111111-----1 16
シマウミスズメ	1-1111111122 37
ミナミハコフグ	-----1111- 11
ハコフグ	22222223222 107
クサフグ	1-2233222-23 68
コモンフグ*	---1----- 1
ハナキンチャクフグ	-----1-1----- 2
キタマクラ	11222222222 75
イシガキフグ	11-1-1-11211 32
ハリセンボン	33222222223 111

*は塔での初記録

表中の数字は月の出現度

(1: 少ない, 2, 3: 普通, 4, 5: 多い)

月	Ja	Fe	Ma	Ap	Ma	Ju	Ju	Au	Se	Oc	No	De	計
出現種数	93	72	70	72	77	86	91	106	119	114	112	97	188

(出現種数の下線は月間最高記録を表す)

特別展示「エルトゥールル号 大鍋発掘物語」開催

野村 恵一

トルコはたいへんな親日国として有名である。ではなぜ、アジアの最も遠く離れた所に位置する国が日本を大切に思っているのか。それにはエルトゥールル号の遭難という悲しい事件がプロローグとなっている。

エルトゥールル号はかつてのオスマントルコの軍艦(全長 76 m, 2334 トン)で、明治 23 (1890) 年に公式親善のために来日したが、帰国の途中で台風に遭遇し航行不能となって串本町紀伊大島樫野沖で座礁・沈没した。この遭難で 650 人の乗組員の多くが亡くなったが、島民の懸命な救助と介抱によって 69 人の命が救われた。また、時の明治政府も遭難者への救護と帰国に尽力を注ぎ、これらの活動がトルコの人々に感銘を与え、両国の友好がスタートしたのである。

樫野沖水深約 15 m の海底に沈んだエルトゥールル号の遺品は、事故当時に可能な限り回収されたが、その他の遺品や船体は現場に放置された。その後、120 年もの歳月が流れ、船は崩壊してしまっただが、その一部は現場の海底に埋まったまま残されている。

最近になり、トルコ海底考古学研究所のトゥファン・トゥランル氏は、遺品の回収のためにトルコ政府、串本町、民間企業から助成を得て、エルトゥールル号発掘プロジェクトを立ち上げた。プロジェクトの現地作業は、海中の透視度が良い 1 月～2 月にかけて実施され、初年度である 2007 年は沈没地点付近の海底のビーム探査によって地形や遺品の埋没場所が解析され、2008 年から本格的な発掘が開始された。

ところで、エルトゥールル号海底埋没遺品群の中で長らくその象徴的存在だったのが、海底からその一端をのぞかせていた大鍋である。2008 年の第 1 次発掘調査では引き上げ寸前の状態にまで掘り起こされ、翌年の作業までに引き上げ方法が検討され、2009 年の第 2 次発掘調査(1 月 26 日)で無事引き上げに成功した。

大鍋は銅製で、直径 70 cm、高さ 45 cm あった。

大鍋を含むエルトゥールル号の発掘遺品は、保存のために 1 年ほど真水に漬けて脱塩処理する必要がある。串本海中公園センターでは、遺品管理をプロジェクトの団長であるトゥファン氏やプロジェクトを支援する串本町から依頼され、また、公開を許可されて急遽展示の運びとなった。前置きが長くなったが、本特別展の実施要領は下記の通りである。

大航海、遭難、120 年の眠り、発掘、展示と、祖国から遠く離れた地で数々の運命をくぐってきた大鍋。この実物をご覧ください、大鍋が語るエルトゥールル号の悲運の物語を想像いただければ幸いである。

特別展実施要領

- ①期間：2009 年 4 月 1 日～2010 年 1 月 31 日
- ②目的：エルトゥールル号発掘遺品を展示することにより、日本とトルコとの友好の歴史的経緯について多くの人に理解してもらう。
- ④特別展の内容：2009 年に発掘されたエルトゥールル号遺品約 10 点、大鍋発掘作業のビデオ映像、解説パネル類約 10 点等。
- ⑥料金：特別展としての特別な入場料は徴収しないが、見学には串本海中公園入場券(大人 1500 円、子供 700 円)が必要。
- ⑦主催：串本海中公園センター
- ⑧共催：串本町
- ⑨後援：串本町観光協会、串本町教育委員会、トルコ海底考古学研究所 (Institute of Nautical Archaeology)、和歌山県、和歌山県観光連盟、YapiKredi Emeklilik



特製水槽で展示中の大鍋

水族館トピックス -63- イガグリガニ 森 美枝

「珍しいカニがかかって、生かしたあるんやけど。」

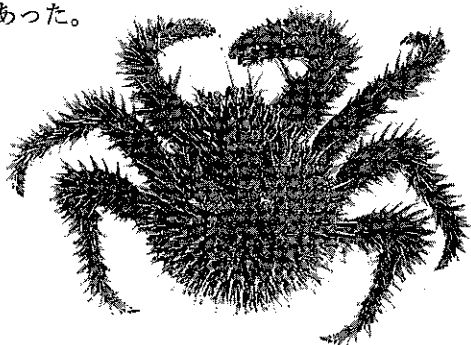
2009年2月10日地元串本町出雲の漁師さんの電話で、早速港の網干し場に向かうと、すでに人だかりができていた。一緒になってバケツをのぞき込むと、目に飛び込んできたのは、まるで茹でたんじやないかと思うような鮮やかなオレンジ色の体と、全身びっしりと生えた棘。「イガグリガニ」だった。

イガグリガニは、東京湾以南に分布し、水深180～400mのやや深い砂泥地に生息する。「カニ」の名が付いているが、脚が普通のカニより1対少ない「ヤドカリの仲間」、そして食べて美味しい「タラバガニの仲間」である。このイガグリガニも食べると甘くて美味しいそうだが、このカニを食べるためには、腹側にまで生えた棘だらけの殻と格闘しなければならない。棘は堅くて鋭く、食べるとなるとまさに^{いがぐり}毬栗を素手でむくような思いになるだろう。よって、市場

にはあまり出回らない。

当館では、1979年4月に旧日置川町（現在白浜町）で捕獲された標本が残っているが、その後捕れたのは1例程で、恐らく3例目の記録だと思われる。温暖な串本では非常に珍しいカニだが、駿河湾や三河湾などでは、わりと普通に網にかかるようである。

さて、この貴重な串本のイガグリガニ、冷却装置のついた水槽に入れ、飼育を試みたが、当初から全くエサを食べず、結局3月7日死亡した。甲長97mm、甲幅90mm、体重310gのメスであった。



今回捕獲されたイガグリガニ
(左の脚1本が欠けている)

白いアカウミガメに名前をつけよう！ 中村 公一

昨年の11月に当館のウミガメパークにやってきた「白いアカウミガメ」の愛称を、現在公募している。募集要項は以下の通りである。

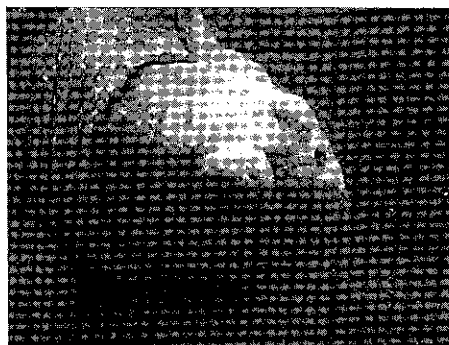
応募期間：2009年2月1日～3月31日

応募方法：はがきまたはメールで白いアカウミガメの名前と必要事項を明記して串本海中公園センターに送付。または、館内応募用紙に記入して応募箱に投函。

選定方法：串本海中公園センター水族館スタッフによる選定。

名前の発表：2009年4月5日に館内ウミガメパークおよび当センターのホームページ上にて発表。

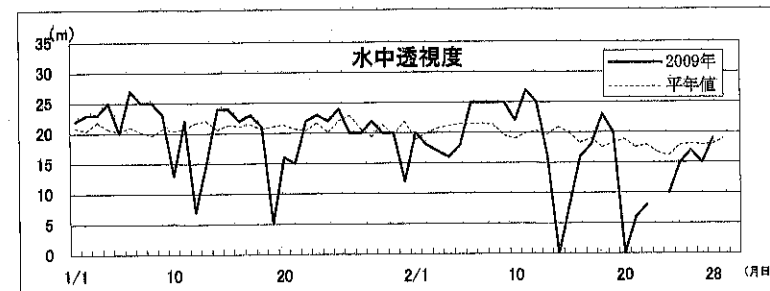
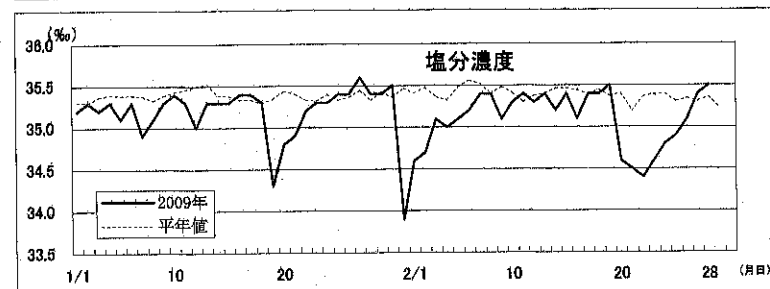
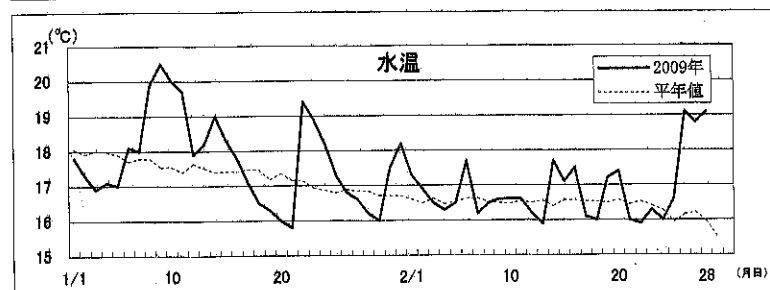
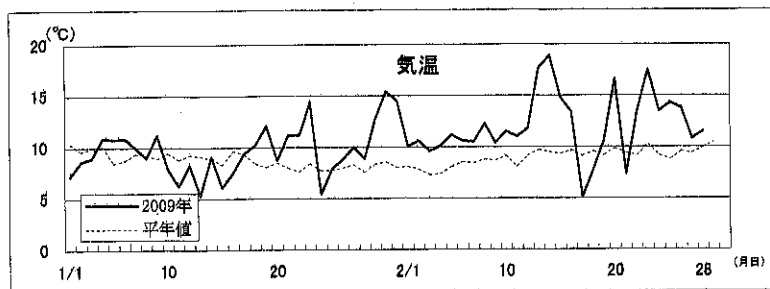
3月15日の時点で応募者総数649名、名称候補数は869点に達した。体色からとった「シロ」や「ハク」、当館の所在する串本町からとった「くっしー」や「串姫」といったものから、「ムテンロウシ」や「ホワイトタイフーン」などとてもユニークなものまで多くの名称が届いている。決定した白いアカウミガメの名称は次号で発表する予定である。



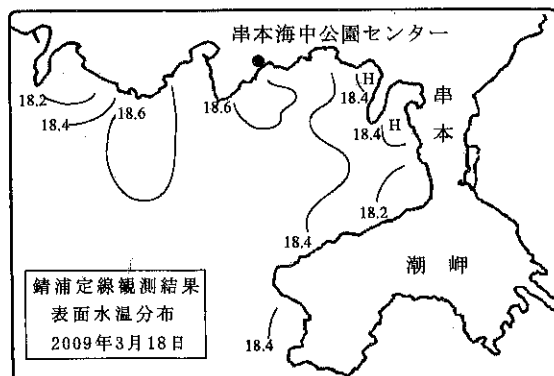
本人（亀？）も期待に胸ふくらませる

鯖浦の海から
森 美枝

平均値	1月	気温 9.6℃	水温17.8℃	塩分濃度35.2‰	水中透視度20.2m
	2月	気温12.0℃	水温16.9℃	塩分濃度35.1‰	水中透視度16.8m



大阪では、24年前阪神タイガース優勝の時道頓堀川に投げ込まれたケンタッキーフライドチキンの「カーネルおじさん」が引き上げられ、ちょっとした騒ぎになっているが、串本では、それよりもさらに100年近く前、串本町大島沖で沈んだオスマン帝国（現在トルコ）の軍艦エルトゥール号の「大鍋」が引き上げられ、ちょっとした話題になっている。引き上げられた大鍋は、青錆が出て、形は多少いびつになっているが、蓋や異国風の取っ手もちゃんと残っていて、直せばまた鍋として使えそうにも見える。耳を澄ませばコトコトと煮物を煮る音が聞こえてきそう。ひとたび台風が来れば大波が荒れ狂うこの海域で、さらにはこの間に起きた南海、東南海など大地震の津波にもよく耐え、残ったと思う。来年エルトゥール号遭難から120年を迎える。命を落とした乗組員を弔うために建てられた慰霊碑は、エルトゥール号が眠る海を今も見守っている。120年前の不幸な事故は、しかし、その後日本とトルコの友好の礎となり、その後の劇的なドラマにつながる。続きは、当館の特別展で！



マリンパビリオン Vol.38, No.2 通巻404号

年6回発行 一部100円
(年間購読料1,000円/送料含む)
発行日 平成20年3月31日

編集兼発行人

〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田1157
(株) 串本海中公園センター
電話 & FAX 0735-62-4875
ホームページ <http://www.kushimoto.co.jp/>
印刷所 坂本印刷